

収穫祭を終えて

「先生できました。」と、うれしそうに顔を見て、作品を手にする園生も、多くは期待と不安の両面を併せ持つ。初めての道具を使い、初めての仕事に挑戦する。最初は、色々と失敗も多かったが、職員も同じだった。形と色、作業の進捗も、園生が主体となり、職員がサポートする体制で進めた。個人差はありますが、作業を始めて1年たった今、小規模ながらも、収穫祭ができたことはとても嬉しいことだと思います。来年、再来年へと更に充実した収穫祭への第一歩を踏み出したいと思います。

～作業班から～ 記、加藤まゆみ

木工部

寒さも段々厳しさを増し、木枯らしが吹きぬける園生も職員も、今年も終わろうとしています。お正月に胸を膨らませて、今年も頑張ろうと決意しています。木工部は、暗黒の中、懐かしい活動もできなかつた。緑台、鉛筆立、犬小屋、ポンプ、コーヒーカップ入れ、挑戦している。一枚の木が、一つの形ある物へ変身してゆく。その中で、収穫祭の完成は、特に園生、職員、保護者の皆様、協力をお願いいたします。これからの能力を最大限に生かし、園生、職員、保護者の皆様、協力をお願いいたします。よいお年をお迎え下さい。

縫製部

雑布をつくりたいと鬼の目、古いタオルなどがあつたら御提供ください。

園芸部

パンパカパーン...またもです。園芸部の作業状況は、まさしく冬。凍りついたように、あつた。散歩の時は、風のように速い。称して、冬風。暖かい武田信玄、ハハハハ。旗を持つのは、重行君、凍の旗を持つのは、正一君。地面に座わって、ジョジョーと言っています。旅の旗を持つのは、伸幸君と正則君。たしか、人は白旗方面、もう一人はバス停だ。たっけな。風の旗を持つのは、豊見山君。フェッフェッつと安房神社までカットします。その他は、ホースの川崎君、カマの佐久間君、ジョウロの白石君、イモ食いの中野君、遮光の山口君、紅一点の悦子さん。このようにすると立派な園が咲くのだよ!

特集 —ふる里のお正月—

「もういくつねろとおしやうがづ——」そこで中里の家の職員に、「ふる里のお正月」と題して語っていただきました。



小濱よし (調理員)

十数年来、故郷で年末年始を過ごしたことはない私には、ふる里は、遠くになりつつあります。その分だけ、房州の地に慣れ込んで、この土地の人になつてきたと自己満足している今日この頃です。そんな私の正月の思い出と言ったら、祖父の作る元旦の朝のお雑煮でした。田舎の習慣でもし言ひましょつか。とこの家でも元旦の朝、膳の仕度は、その家の、大黒柱の男の仕事でした。父が若死した我が家では、当時70才を過ぎたであろう祖父が、元気で奥入瀬川で取れた生サケ、いくら、又、タラなど海の幸、山の幸のたんぷりに入った雑煮やお汁のたくさん入った熱々の煮メなど、野良仕事で鍛えた太い大きな手で、ダイナミックに作る祖父のおせち料理は又、格別でした。もうすぐふる里、青森は深い雪に埋れるでしょつか。実家は、母も90才を過ぎた祖母も今だに健在です。そのうちいつか帰りたいです。

鎌田善一 (指導員)

私のふる里は、埼玉県の大吉です。お正月だからといって特に変わった催しがあるわけはないのですが、最近家族4人が揃うことがあまりないのですね。お正月は家族だんらんの時になっています。私の家では2日に初詣でかかります。それも近くの神社ではなく、わりと遠くの有名な所へです。有名で、人かたさん集まるからといって特に願いをかかなくてくれるといふわけでもないのですが、また、最近では、初日の出を見ることがお正月の楽しみの一つになっています。中学校の頃の幼なじみと誘い合っただけでなく、今年のお正月は、筑波山の山頂で初日の出を見ました。太陽の昇ってくる瞬間のあの感動と、身を切るような冷たく澄んだ冬の空気が、大変印象的でした。来年もぜひ初日の出を見たいと思っています。皆さんも一度、初日の出を御覧になってみては、いかかでしょうか。家のベランダからでもいいと思います。

編集後記

今年も残すところ10日余りとなり、各御家庭では、年末の掃除やお正月の準備でお忙しい事と思います。園生も、家に帰る日を心待ちにしているこの頃です。4月に開所して以来8ヶ月がたち、どうにか「暮らしやすい生活を送る事ができるようになりました。人の集まりには、「豆腐集団」と「納豆集団」があるそうですが、我家は、1粒1粒が個性を持ち、互いに糸を引合っている「納豆集団」というところでしょうか。見事な粘りと味わいは、我家ならではのものと思います。新しい年も、作業や様々な行事を通して、存分に力を発揮してくれることでしょうか。来年も良い年でありませうように……。どうぞ楽しいお正月をお迎えください。